

▲▽組合活動レポート▽▲

❖海難撲滅に向けての安全啓蒙活動 ②

道東支部長 清水 誠

釧路市を拠点として活動する道東支部は、主に北海道の東部の港を拠点とする漁船を担当していますが、網走の流氷観光砕氷船を運航している道東観光開発株式会社も担当しています。これから流氷の季節になりますので、オホーツク海から流れてきた流氷を、流氷観光砕氷船で安全に楽しんでもらうのですが、昨年の遊覧船沈没の海難事故の影響は大きく、船の安全性に対する風評被害を払拭するために、現場組合員が日々、安全運航のPRに努めています

■風評被害を払拭、浸水を想定し脱出訓練を実施・人命最優先の安全確認

斜里町ウトロ漁港を発着する道東観光開発株式会社の「おーろら」(491トン)では、未組織会社の遊覧船の沈没事故を踏まえ、5月9日に浸水などの事故を想定した訓練を実施しました。訓練はウトロ漁港で午前中に行われ約3時間にわたり、船舶に備え付けられている人命最優先のための救命艇や救命いかだの動作確認を中心に実施されました。

観光船事業者に義務付けの法定訓練の一環でもあり、乗組員15人が船舶設備のポンプを使い、船内に浸水した水を排出する想定で訓練、同時に救命いかだと船外機付き救命艇を海上に降下させ、救命いかだを救命艇で岸壁までけん引しました。「おーろら」は25人乗り救命いかだを16個、救命艇1隻を設備しており、定員390人を全員収容できます。

未組織遊覧船沈没事故要因のひとつに、船舶設備と運航に関する会社の安全管理がずさんと報道されています。船を運航するための技術、海技の伝承は短期間で習得できる内容ではありません。特に陸上の事務所で、遠く海上を航行している船舶の安全を管理する場合、船舶の運航経験のある者、すなわち船員職業経験者でなければ、どれくらい風が吹けば危険だとか、気象や海象が、どの海域でどう変わるのか、船からの情報と客観的視点を合わせての判断が難しいと思われます。

特に人命を預かる旅客船や遊覧船の現場では、日々、安全運航に努めるために、運航技術や気象・海象、港や航路、航法など、海や船に関する深い知識と経験を積んでいるほか、船舶設備の安全点検も含め、海技の伝承として、ベテランの船長、機関長が後輩たちを指導・監督して、優秀な船員を育てています。

「海員だより」